

新 おいしい新ふくいポーク生産技術の開発(平成27~28年度)

(現状)

- 福井県内の豚肉消費量は年間約4,500tであるが、ふくいポークの生産量は年間約248tでシェアは5.5%程度である。
- ふくいポークは、地産地消、食味・品質の良さで市場の評価は高い。
- TPPの影響により低価格の輸入豚肉が出回る可能性が大きい。
- 全国の銘柄豚のふくいポークと同じLWDで、現状では産地間競争に勝ち残れない。

- ・他の銘柄に負けない魅力ある豚肉生産が必要
- ・販売価格の向上が不可欠

- バークシャー種を利用し新たなふくいポークの作出

- ・バークシャー種の特徴
- 肉の繊維が細く、歯切れがよく柔らかい
- 肉の食感がジューシーである
- 旨味成分が多い(イノシン酸2.4倍)
- 体が小さく産肉性が悪い
- 産子数が少ない



(課題)

- ・国内でのバークシャー種の三元交配肥育の事例が非常に少なく、適正な飼養方法が確立されていない。
- ・三元交配による繁殖成績、産子数、育成率、肥育成績の低下等の生産性の悪化が懸念される。

(研究内容)

- 1 LWB・LBD交配による繁殖、肥育成績の検討
 - ・従来のふくいポークの交配方法
 $LW(\text{♀}) \times D(\text{♂}) = LWD$



①新ふくいポークの交配方法

$$LW(\text{♀}) \times B(\text{♂}) = LWB$$

②新ふくいポークの交配方法

$$LB(\text{♀}) \times D(\text{♂}) = LBD$$

※L:ランドレース種 W:大ヨークシャー種
D:デュロック種 B:バークシャー種

○調査項目

LWB・LBD子豚の産子数、育成率、肥育成績
年間繁殖成績、豚肉官能試験

2 新ふくいポークの飼養管理技術の確立

- ①母豚管理法の改善による産子数、育成率の増加
- ②子豚の飼養管理方法改善による哺育、肥育成績の向上
- ③飼料用米を利用した肥育成績向上および低コスト化の検討

調査項目

肉質評価(枝肉重量、ロス芯面積、皮下脂肪厚)
肉質検査(一般分析、脂肪酸組成、アミノ酸組成)
以下①と同じ

(研究目標)

- 従来のふくいポークと同等の生産性の確保

- ・産子数13頭以上
- ・育成率80%以上
- ・生涯DG0.8kg以上



- ・新ふくいポーク飼養管理技術マニュアルの作成

(期待される成果)

- 新ふくいポーク生産頭数の増加
3,500頭⇒7,000頭/年

- 新ふくいポーク産出額の増加
約2億円

- 飼料費の低減
肥育豚1頭当たり1,500円削減

